

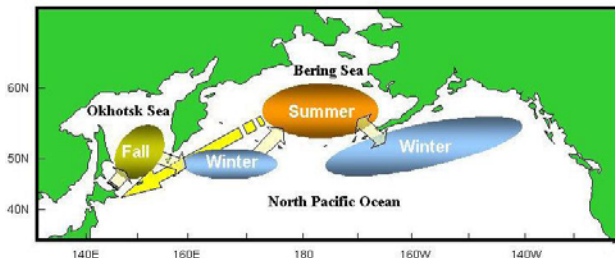


2012. 7. 22

日本系さけます類の沖合調査

日本におけるサケの人工ふ化放流事業は 120 年を超える歴史があります。しかし、事業開始当初は放流された魚が何処で餌を食べ、何処を泳いで生まれた川へ帰るのか等、サケの回遊経路に関する基礎的な情報は皆無に近い状態でした。その後、鱭を切って標識した魚の放流実験や、沖合で捕った魚の DNA 鑑定等が行なわれた結果、今では日本系サケの回遊経路が下図(左)のとおりに推定されています(浦和 2000、http://salmon.fra.affrc.go.jp/kankobutu/salmon/salmon05_p03-09.pdf)。また、近年は各国から放流される多くのサケ稚魚に耳石温度標識が付けられているため、魚の分布や回遊経路に関する情報が飛躍的に増えています(会報 3 号参照)。例えば、千歳川、静内川、伊茶仁川由来と特定できるサケの幼魚が、ベーリング海の真ん中で捕獲されました。このような沖合域の調査研究は継続することが重要です。今年も(独)北海道区水産研究所の調査船「北光丸」(右下写真)が、7 月 20 日から 20 日間余りの予定でベーリング海調査に向かいました。

日本系サケの回遊経路推定図
Seasonal ocean distribution of Japanese chum salmon



北光丸



会員の活動

- ・ 大切と石狩の自然を守る会ニュース“ヌタ^プカムシ^ペ 144 号”が発刊されました。
- ・ 豊平川さけ科学館では“さかなウォッチング”、“サケたちのエサやり”、千歳サケのふるさと館では“身近にいる外来生物展”、“トゲウオ、カタツムリ、シシャモの展示”等が開催されています。
- ・ 北海道サーモン協会の木村義一代表が、札幌の学習センター「ちえりあ」において、“鮭の不思議な生態を知る”の演題で 5 週間のロングラン講演を開催中です。
- ・ ニュースレター 33 号から執筆担当が北海道サーモン協会の伴に代わりました。今後も変わらぬ情報提供に努めます。 (B)